

CLO・CBOの仕組み

(出典：東京都産業労働局ホームページ)

1 CLO（ローン担保証券）とは

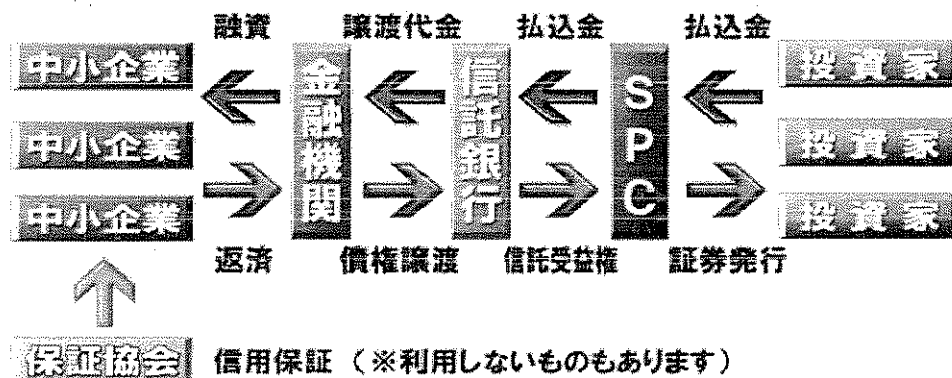
CLOとは、融資債権を裏付けとした証券を投資家に販売することで、金融市場から資金を調達する手法です。

CLO=Collateralized Loan Obligation（ローン担保証券）の略称です。

CLOを利用するメリット

- (1) 借入の形を介しますが、金融市場（投資家）からの資金を呼び込めることにより、資金調達の多様化が図られます。
- (2) 将来、単独で社債発行等を行う前の、直接金融への第1ステップとなります。
- (3) 無担保、長期の融資のため、資金繰りの安定化が図られます。

【個別企業への融資】 【信託設定】 【証券化(金融市場からの資金調達)】



東京都により平成11年度以降実施された5回のCLOは、いずれも中小企業向けの新規貸付を金融機関が信託銀行へ債権譲渡し、その信託受益権を裏付けとした債権をSPC（特別目的会社）を通じて投資家に発行したものです。

中小企業が東になって、仕組みと工夫を加えることで投資家から資金調達できる手法です。

2 CBO（社債担保証券）とは

CBOとは、中小企業が発行する社債を束ね、投資家に販売することで、金融市場から資金を調達する手法です。

CBO=Collateralized Bond Obligation（社債担保証券）の略称です。

CBOを利用するメリット

(1) 安定した資金調達が図れます。

返済は期日一括償還／利払いは6ヶ月毎後払い／固定金利により調達時にコストが確定できます。

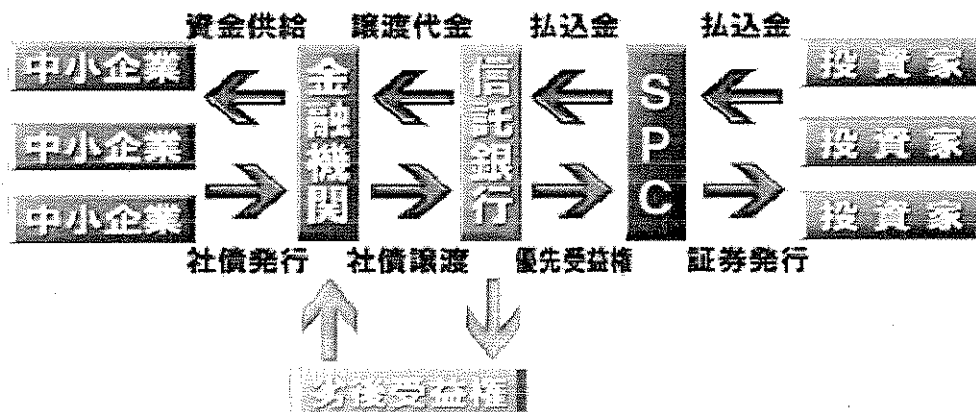
(2) 企業としてのステータス・信用力向上効果が期待できます。

社債発行は『優良企業・成長企業』の証として高い評価が期待できます。

(3) 上場に向けての第一歩として意義があります。

直接金融のファーストステージとして多くの上場企業が私募債発行を活用してきました。

【個別企業の社債発行】 【信託設定】 【証券化(金融市場からの資金調達)】



- 参加企業の皆様が社債を発行して資金調達するしくみです。
- 企業としてのステータス向上／直接金融の第一歩となります。

- ・ 参加企業は社債（私募債）を発行し、窓口金融機関が引き受ける。
- ・ 金融機関は、社債を信託銀行に信託譲渡し、信託受益権を取得する。
- ・ 窓口金融機関は取得した優先受益権をSPC（特別目的会社）に譲渡する。
- ・ SPCは取得した優先受益権を裏付けとする債権（CBO：社債担保証券）を発行。
- ・ CBOは証券会社が引き受け、投資家に販売する。

中小企業が束になって、仕組みと工夫を加えることで投資家から資金調達できる手法です。